

第3学年 国語科学習指導案

指導者 高井 菜月
場 所 2階3年教室

1 単元名 読んで、考えたことを発表しよう
「海をかつとばせ」

2 単元目標

- ・登場人物と自分を比べながら読もうとしている。 (関・意・態)
- ・条件に合わせて文章を書き、それを読み合って感想を述べ合うことができる。 (書ウ・カ)
- ・場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述をもとに想像して読み、感じた事を発表し合って一人ひとりの感じ方の違いに気付くことができる。 (読ウ・オ)
- ・文章から様子を表す言葉を見つけ、それらの言葉を使って短文を作ることができる。 (伝国イ(オ))

3 指導にあたって

(1) 教材観

本単元は、児童にとって「叙述を根拠に人物像を明らかにし、自分に引き寄せながら比べて読む」初めての学習である。本教材は、野球の特訓を決意した主人公の少年が、素振りに訪れた浜辺で小さな男の子に出会い、思わぬ応援を得る物語である。時間の経過により5つの場面に分けることができ、主人公の少年ワタルの行動に従って物語が展開していくため、場面による主人公の気持ちやその変化などの移り変わりがとらえやすくなっている。行動や口調の変化、情景描写などの叙述をもとに、主人公の性格や気持ちの変化、情景などをつかむことができる。また、等身大の少年が主人公となっているため、自然と自分の経験を思い出して自分に引き寄せながら読み、友だちの感じ方との共通点や相違点を見出すことができる教材である。

<単元の系統> (☆…読むこと ◆…書くこと)

2年生

スイミー

☆人物の行動や場面の様子について想像を広げながら読み、大事な言葉や文を書き抜き、それをもとに感想を書く。
◆書いたものを読み合い、感想を伝え合う。

わたしはおねえさん

☆登場人物の行動や場面の様子から想像を広げて読み、自分の経験と結び付けて感想をもつ。
◆今と過去の自分を比べ、文章を書く。

3年生

きつつきの商売

☆場面の様子やその違いに注意して音読を工夫し、発表する。
◆想像したことの中心を明確にし、様子が分かるように書く。

海をかつとばせ

☆場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述をもとに想像して読む。
◆条件に合わせて文章を書き、読み合って感想を述べ合う。

ちいちゃんのかげおくり

☆場面の移り変わりに注意しながら、人物の行動、情景、会話などの表現に着目して読み、本文を引用して感想を書く。
◆感想を比較し、考えの明確さなどについて意見を伝え合う。

三年とうげ

☆物語の組み立てをとらえ、登場人物の気持ちや情景を想像する。
◆読んで考えたことを発表し合い、一人ひとりの感じ方の違いに気づく。

モチモチの木

☆場面ごとの登場人物の行動や会話から、人物の気持ちの変化に注意しながら読む。
◆自分にとって必要な部分や情報を特定して書き抜く。

4年生

ごんぎつね

☆場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて叙述をもとに想像して読む。
◆目的に応じて書き、書いたものを発表し、意見を伝え合う。

三つのお願い

☆登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて叙述をもとに想像して読む。
◆書こうとすることの中心を明確にし、理由を挙げて書く。

(2) 児童観

本学級の児童は、日常的に読書活動に積極的に取り組んでいる。朝読書の時間のみでなく、休み時間などにも進んで本を読む児童が多く、図書室から借りてきた本や学級文庫の本を毎日読んでいる。

読むことに関しては「きつつきの商売」の学習で、二つの場面から登場人物の行動や天気・場所などの様子を表す叙述をもとに、それぞれの様子の違いを読み取った。そして、単元末では読み取ったことをもとにして工夫して音読をする活動に取り組んだ。ほとんどの児童が、天気や登場人物、それらのいる場所の違いなどを叙述をもとに読み取ることができた。また、「イルカのねむり方」「ありの行列」の学習で感想を交流し、ほとんどの児童が一人ひとりの感じ方の似ている所や違う所に気づくことができた。

書くことに関しても「イルカのねむり方」「ありの行列」の学習で、書く内容の中心を決め、感想をもった箇所を明らかにしながら、説明的文章を読んだ感想文を書く活動に取り組んだ。しかし、書くことの中心を決めたが、それに応じた内容の感想を書くことが難しい様子の児童の姿も見られた。また、書いた感想文を読み合い、内容や書き方のよさについて考えたことを述べ合う経験もしたが、書いてある内容のよさを見つけることが困難な様子の児童もいた。

(3) 指導観

本単元では、それぞれの場面の様子に気をつけて、場面と場面とをを関連付けて読み、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、登場人物の行動や会話などの叙述をもとに想像して読む力をはぐくむ。その力を身に付けさせるために、単元を貫く言語活動として「お気に入りの人物と自分を比べてポスターで紹介しよう」という活動を設定した。

三次では「お気に入りの人物を紹介するポスター」を作り、並行読書してきた本の中から選んだお気に入りの登場人物の「名前」「性格」「その人物らしい行動や会話」「自分と比べた感想」を紹介する。そのために、登場人物をとらえてその中の中心人物を把握し、その行動・会話・心情描写などをもとにして、人物の気持ちの変化や性格を読み取らせる。児童にとって人物の気持ちの変化や性格をとらえるという視点で物語文を読むのは、本単元が初めての経験となる。そのため、行動や会話、気持ちが表れる叙述に線を引かせることで、根拠を示しながら想像を広げ、性格をとらえることができるようにする。そして、登場人物の性格を知った上で、登場人物と自分を比較して似ている所や違う所などを考える活動に取り組ませ、新たな読書の視点を見出したり、今まで気付かなかった自分や友だちの側面を知ったりすることにつなげていきたい。

また、二次の毎時終末では、三次の学習に見通しをもって取り組めるよう、三次でポスターに書く内容を意識してその日に読み取ったことを整理させる。それにより、一人ひとりが単元を貫く言語活動を常に意識しながら、意欲的に学習に取り組み、学びの実感をもてるようにする。書くことが難しい児童がいるため、二次では、文章の書き出しや文の終わりの表現を個別に提示して文章を書かせ、三次では自分なりに表現することができるよう、スモールステップで書く活動を取り入れる。それにより、どの児童も条件に合わせて文章を書くことができるようにしたい。さらに、お気に入りの人物を見つけて紹介するために、図書室や地域の図書館を活用して、学級文庫に「本の友だちコーナー」を設置し、等身大の人物が出てくる本の並行読書に取り組ませる。

本校の研究との関わりとして、単元末では、「海をかつとばせ」の学習で身に付けたことを生かして、「お手紙」(光村図書 国語2年下)という教材を読ませ、学習したことを活用する場を設ける。本教材と比較することで「人物の行動や会話、気持ちが表れている所から性格を読み取ることができる」ということに気付かせ、3年生3学期の「モチモチの木」の学習では、主人公一人のみでなく何人かの登場人物についても「行動や会話」をもとにして確実に性格をとらえられるようにしたい。また本単元では、登場人物の性格について、行動や会話、気持ちなどを表す叙述をもとに想像して読み、考えたことを説明する力を身に付けさせたい。そのために、既習の掲示を活用して説明したり、三角ロジックを意識して考えのみでなく、根拠や理由を挙げて話したりすることを意識させたい。

4 指導計画と評価計画（総時数9時間）

時	次	目標	主な学習活動	評価規準（評価方法）	評価規準			
					関	書	読	言
1	一	学習課題を知り、単元の見通しをもって学習に取り組むことができる。	・自分が頑張っていることについて話し合い、友だちがどんなことに興味をもっているか知る。 ・「お話の中の人物をポスターでしようかいしよう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。	・学習課題を知り、単元の見通しをもって学習に取り組もうとしている。 （発言・行動観察）	○			
2	二	登場人物や物語のあらすじをとらえることができる。	・バラバラになった文を物語の順序に並び替え、登場人物やそれらの行動、会話、全体の流れなどをおおまかにとらえる。	・登場人物や物語のあらすじをとらえて説明している。 （発言・ノート）			○ウ	
3		場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述をもとに想像して読むことができる。	・秘密の特訓をするワタルの行動や会話に着目して、気持ちや性格について考える。	・場面の变化に注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述をもとに想像して読むことができる。 （発言・ノート）			○ウ	
4			・海で練習をするワタルと男の子の行動や会話に着目して、気持ちや性格について考える。	・場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述をもとに想像して読むことができる。（発言・ノート）			○ウ	
5			・波の子どもたちと約束をするワタルの行動や会話に着目して気持ちや性格について考え、全文から気持ちの変化を考える。	・場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述をもとに想像して読むことができる。（発言・ノート）			○ウ	○オ
6	三	条件に合わせて文章を書くことができる。	・自分の立場を明確にし、会話や行動を表す文などを必要に応じて引用したり要約したりし、条件に合わせて文章を書く。	・条件に合わせて文章を書くことができる。 （発言・ワークシート）		○ウ		
7		書いたものを読み合い、感想を述べ合うことができる。	・ポスターの文章を読み合い、感想を伝え合う。 ・互いの考えを交流し、一人ひとりの感じ方に違いがあることに気付く。	・書いたものを読み合い、感想を述べ合っている。 （発言・ノート）		○カ		
8		本の登場人物と自分を比べて考えた事を発表し合うことができる。	・並行読書してきた本の中から選んだ登場人物と自分を比べて、考えた事を発表する。	・選んだ本の登場人物と自分を比べて、考えた事を発表し合うことができる。（ノート・記述内容）			○オ	

まるごと活用 （本時）	学んだことを生かして、叙述をもとに登場人物の性格を想像しながら読むことができる。	・「お手紙」を読み、登場人物の行動・会話・心が分かる所などの叙述から中心人物の性格をとらえる。	・学んだことを生かして、叙述をもとに登場人物の性格を想像し、説明している。 （発言・ノート）			○ウ	
----------------	--	---	---	--	--	----	--

5 本時の学習（まるごと活用）

- (1) ね ら い 学んだことを生かして、叙述をもとに登場人物の性格を想像しながら読むことができる。
- (2) 評価規準 **読** 学んだことを生かして叙述をもとに登場人物の性格を想像し、説明している。
- (3) 準 備 児童用教材文（「お手紙」 2 年下）、短冊
- (4) 展 開

過程	学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点・ 評価◎ 支援○
つかむ (3)	1 前時までの学習を振り返る。 ○「海をかつとばせ」を読むポイントは何でしたか。 ・登場人物を見つけた。 ・登場人物の行動、会話、心が分かる所をヒントにして、どんな人物か考えた。 ・自分と比べて似ている所や違う所を見つけた。	・「海をかつとばせ」の学習掲示を提示する。 ・登場人物の性格をとらえるために、人物の行動や会話、心が分かる所に着目したことを想起させる。
考える (17)	2 課題をつかむ ○ほかの物語ではどうだろう。 課題 中心人物がどんな人物か考えるポイントは、ほかの物語でも同じかな。	
学び合う (20)	3 情報を取り出す。 ○お話を聞きましょう。 ○お手紙の中心人物はだれですか。 ・気持ちが一番大きく変わっているから、がまくんが中心人物だと思うな。 ○がまくんは、どんな人物だとみんなに紹介しますか。考えたことをノートに書こう。	・教師の範読を聞きながら、叙述に目を向けて考えるよう伝える。 ・見通しをもって紹介できるよう、「考え」「根拠」「理由」をノートに書いて整理させる。
まとめる (5)	4 全体で共有する。 ○あなただったら、がまくんはどんな人物だとみんなに紹介しますか。 ・わたしは、がまくんはわがままだと思います。9 ページの 8 行目を見て下さい。がまくんは「いやだよ。」と言っていますね。かえるくんが優しくしてくれているのに、「いやだよ。」と断っているからです。 ・ぼくは、本当は優しいと思います。P. 14 を見て下さい。「とてもいいお手紙だ。」とがまくんは言っていますね。ずっといじけていたのに、かえるくんの手紙の内容を聞いて「いいお手紙」と褒めているからです。 ○「海をかつとばせ」では、行動・会話・心が分かる所を見るとどんな人物か分かったけど、「お手紙」はどうか。 5 本時を振り返り、まとめる。 まとめ どんな人物かは、行動や会話、心が分かる所に表れている。	◎学んだことを生かして叙述をもとに登場人物の性格を想像し、説明している。 読 （発言・ノート） ○登場人物の性格をとらえることが困難な児童には、性格をとらえるための視点を振り返らせ、会話や行動などの叙述をもとに考えさせる。 ・根拠や理由を順序立てて話せるよう話型を示し、発表の仕方を提示する。 ・「海をかつとばせ」の例を挙げ、比べて読ませることで人物の行動や会話、心が分かる所などの叙述から性格をとらえられることに気づかせる。 ・キーワードを提示し児童の言葉でまとめる。

(5) 筋道を立てて説明するための本時の位置付け

付けたい力	教師が求める説明	支援
<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の性格について、行動や会話、気持ちが表れる（心が分かる）叙述をもとに想像して読み、考えたことを説明する力。 	<ul style="list-style-type: none"> わたしは（ぼくは）、がまくんは～（な性格／な人）だと思います。～を見て下さい。～と書いてありますね。～からです。 	<ul style="list-style-type: none"> 根拠や理由を書くことが難しい児童には、個別に問いかけ、理由とそう考えるもとになった根拠を言葉で表現させ、教師が文章化して例を示す。 三角ロジックの話型を学習掲示を使って確認させる。

(6) 板書計画

